

# 夜の公園 無料の弁当に列

## 女性や若者もコロナで困窮

危機の時代に  
2021 衆院選 ①

週末の買い物を楽しむ家族や友だち連れ、コスプレイベントに集まった若者が行き交う東京・池袋のサンシャインシティ。そのわきにある東池袋中央公園は、ここだけが別世界のようだった。

9月下旬の屋下がり、人々が「ソーシャルディスタンス」でほぼどの間を空けて列に並びだした。高齢の男性が多いが、中年の男女、スマホをいじりながら待つ若者の姿も。日が落ちるころには、広い公園を埋める長蛇の列となった。彼らの目当ては、無料でもらえる弁当だ。生活に困



支援団体「TENOHASHI」の炊き出しと生活相談。日没後も相談が続いた。9月25日、東京都豊島区の東池袋中央公園

る人々を支援するNPO法人「TENOHASHI」が、炊き出しや生活相談を用いて助けようとしている。

要と二輪に列に並び男性(54)は、ホテルの従業員。コロナ禍の影響で仕事がなくなつた。会社は休業手当を出さず、収入が減った。妻は飲食店におしほりを通入する会社でパートで働い

ていたが、その仕事も失った。今年2月ごろ、炊き出しの情報をテレビで知り、訪れるようになった。

最近ではホテルの仕事が徐々に戻ってきたものの、生活は苦しいという。「並ぶのは正直、恥ずかしさもあるけど、こういう場があるのは本当にありがたい」。若い人にも話を聞いた。

並ぶのは3回目という男性32は、派遣会社に登録し、ネット通販大手の倉庫で商品の梱出しの仕事をしてきた。ところが、今年夏、雇い止めに遭った。ハローワークにも通ったが、コロナ禍以来の就職難で厳しい現実を直面した。興味を持った病院の清掃の仕事は、3人の求人に40人の応募があり、あきらめた。

友人の家に居候し、日雇いの仕事で食いつなぐ日々だ。今の月収は7万円ほどになった。

「収入を計算できる仕事を早く見つけて、炊き出しに頼らなくてもいい生活に早く戻りたい。今はとにかく粘るしかないです」。ほかの人たちも、事情はさまざまだった。生活保護を受けているが、障害の加算分を減らされ、生活がますます苦しくなった人、専業主婦だったが、家で「いろいろあつて」路頭に迷った女性……。よい仕事が見つからないという声も多く聞いた。

午後6時、弁当の配布が始まると、並んだ人たちは次々と受け取り、用意された400食は20分ほどでなくなった。

### リーマン以来の人数

この日、炊き出しや生活相談に集まったのは416人。コロナ危機が本格化した昨年春以降は200人台が多かったが、今年に入ってから急増し、最近では300人台が続いていた。今回400人を超えたのは、リーマン・ショック後の2009年以来。最近では20、30代が増え、コロナ以前はほぼ皆無だった女性も来るのが特徴だという。

貧困の現場を長年見てき

「TENOHASHI」の豊野 啓司・事務局長(60)の表情には、危機感がにじむ。「コロナでめんどめんどで困窮して、液状化現象のような貧困層が表面に出てきた。困窮する人に手を差し伸べる」というメッセージを、今こ

を国が強いてほしい」(五郎丸健一)  
2面に続く

# 安全網に穴 不安と不信と

## 休業手当・雇用保険「当てにならず」



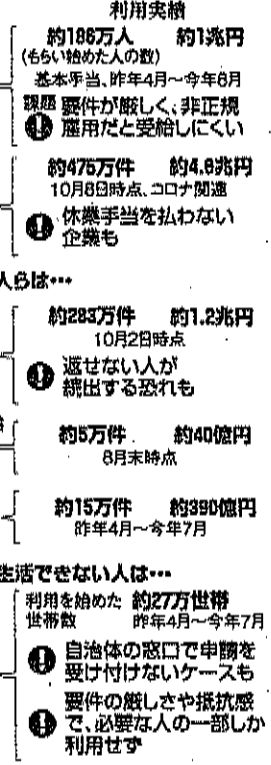
1面から続く

人々の暮らしを脅かした  
コロナ危機。露呈したのは  
セーフティネットのあち  
こちに関いた「穴」だ。

「ルールは守られず、雇  
用保険も当てにならない。  
国の仕組みがきちんとして  
いない」とぞつぞつと感  
を述べた。東京都内のフ  
マミレスで会った女性(48)

の言葉には、世の中への不  
信がこもっていた。  
2人の子がいるシングル  
マザー。コロナ以前は、彼  
谷のレストランでアルバイト  
店員として週5日、1日  
10時間以上働き、30万円ほ  
どの月収があった。社会保  
険にも入っていた。

ところが、昨年4〜5  
月、最初の緊急事態宣言で  
店は休業。社員と同様、休  
業手当ももらえなかった。



コロナ危機でセーフティネット(安全網)はとう機能したか

業手当を会社からもらえ  
ると思っていた。出たのは8日  
分だけだった。会社は「勤  
務シフトが決まっているの  
分は、休業手当を払う必要  
がない」と主張し、相談し  
た労働基準監督署も助けて  
くれないと断った。

6月には会社から「1カ  
月後に閉店する」と告げら  
れた。雇用保険で失業給付  
をもらって次の仕事を探そ  
うと思いき、店をやめたが、  
その当ても外れた。会社

## 現金給付 競う与野党

国は一人ひとりの暮らし  
の保障にどう役割を果  
たすべきか。コロナが公助

カム(BI)学会。約40人  
の参加者は、教員や介護職  
ら研究者以外も目立った。  
BIとは、国がすべての  
人に一定額を定期的に配る  
「究極の公助」だ。巨額の  
財源などが難題で、生活を  
維持できる額で全面導入し  
た国はない。コロナ以降、  
アイデアの発信が相次ぎ、  
賛否両論に火をつけた。  
同学会の樋口博義会長  
(元水戸短期大学教授)は、  
昨年配られた一律10万円の  
給付金のインパクトが大さ  
かったと言った。「給付金は  
BIと共通する面がある。  
だれでも政府から生活費を  
もらえることがあり得るん  
だと多くの人が実感した」  
今回の危機は、医療体制  
や安全網のほころび、経済  
格差をあらわにし、公衆衛  
生や所得再分配といった政  
府の役割の大切さを人々に  
再認識させた。  
その求めに応じるよう  
に、主要国は軒並み巨額の  
経済対策を打ち出し、財政  
を一気に拡大させた。日本  
も、2020年度予算は総  
額175兆円に膨らみ、過  
去最大を大きく更新した。  
市場と「小さな政府」を  
信守する新自由主義は、08  
年のリーマン・ショックで  
曲がり角を迎えたが、その  
後も格差拡大への不満を背  
景に、米国のような社会の  
分断やポピュリズムが広が  
った。そこに襲ったコロナ  
危機で新自由主義は弱り力  
を失い、世界はいや応なし  
に「大きな政府」へと回帰  
しつつあるように見える。  
日本でも、岸田文雄首相  
が「新自由主義からの転  
換」を掲げ、経済政策の軸  
を分配に移すと訴える。衆  
院選では与野党とも現金給  
付を打ち出し、経済対策で  
何十兆円もの規模を競い合  
う。しかし、大事な問題が  
置き去りのままだ。

## 受益と負担 示す責任

生活に困る人には、無利  
子の貸し付けや家賃補助な  
どを拡充したが、制度から  
こぼれ落ちる人は後を絶た  
ず、生活保護の申請もじわ  
じわ増えている。困窮者の  
支援団体「つくろい東京フ  
ォード」の稲葉剛代表理事  
は、政府や自治体に対策の  
改善を働きかけてきた。  
「対応は場当たり的で、公助  
の仕組みはあっても実際は  
しのいできたが、不安は頭  
を離れない。支援策が打  
ち切られると、どうやって  
生活を保てるか」と訴える。

現金給付をめぐって、米  
国や英国、ドイツなどは、  
財政出動とセットで増税な  
ど財源確保の道筋を示す。  
バイデン米大統領は4月の  
議会演説で「企業と最富裕  
層に公平な負担をしてもら  
う」と訴えた。米国の  
「見直し」は、以前か  
ら低く、しかもコロナ  
対応で政府はさらに借入  
を増やしていった。  
だれもが受け入れやすい  
公助の充実を訴えるだけで  
は信頼は取り戻せない。国  
民の信頼が欠かれない。  
消費税への抵抗感の強さ  
に見られるように、以前か  
ら低く、しかもコロナ  
対応で政府はさらに借入  
を増やしていった。  
だれもが受け入れやすい  
公助の充実を訴えるだけで  
は信頼は取り戻せない。国  
民の信頼が欠かれない。

終わらぬ新型コロナウイルスの感染、  
差し迫る地球温暖化など、  
わたしたちはいま行動や価  
値観の変化を迫られる危機  
の時代に生きている。守ら  
べきものは、そして変わら  
なくてはならないものと  
は、衆院選を前に考える。